



臨床研究に関する情報の公開

作成日:2024/07/02

研究課題名	各腎臓疾患での慢性腎臓病進行に伴う組織学的変化・予後因子について
研究の対象	2000年から2023年までに田附興風会 医学研究所 北野病院にて腎生検を受け、日本腎臓学会の運営する腎臓病総合レジストリーへの参加を希望された方
研究目的・方法	<p>腎機能低下進行例では、原疾患に関わらず不可逆的に腎機能低下が進行することが知られており、その機序として尿細管間質の慢性低酸素などの共有の障害機序(final common pathway)が存在することが知られている。末期腎不全に至る過程にある慢性腎臓病(CKD)は腎臓の働き(GFR)が 60ml/分/1.73m² 未満に低下するもしくは尿潜血及び蛋白尿等の尿所見異常が3か月以上と定義されている。CKDは20歳以上の成人の8人に1人ほどいると考えられ、早期介入により透析療法が必要となる時期を遅らせ、生命予後の改善が期待できることから新たな国民病として知られている。</p> <p>このように CKD は末期腎不全に至る前の各疾患の病態を知ることが透析療法の回避において重要であるが、CKDの重症度分類は原因疾患を問わず GFR と ACR(アルブミン/クレアチニン比)もしくは蛋白尿クレアチニン換算値で分類され、疾患毎での CKD 進行に伴う組織学的変化については十分に理解が得られていない。</p> <p>我々は、2024年度腎臓内科学会総会にて糖尿病性腎症・IgA腎症・腎硬化症・間質性腎炎・顕微鏡的多発血管炎において腎機能低下に伴う完全硬化系球体率・間質線維化率が異なることを示した。これらの疾患は、日本透析医学会が公開する2022年末の慢性透析患者に関する集計によると慢性透析患者の原疾患として糖尿病性腎症 39.5%、慢性系球体腎炎 24.0%、腎硬化症 13.4%、急速進行性系球体腎炎 1.0%が挙げられていることから、CKDの中でも進行過程の理解が重要な疾患群である。</p> <p>また、CKDの病態として、IgA腎症・IgA血管炎・IgA dominant 感染症関連腎炎などの類似疾患の存在も知られており、それらの病態や予後の差異についての本邦における検討は十分となされていない。</p> <p>この度は各疾患別に CKD の進行度に応じた詳細な腎組織学的特徴・生命予後・腎予後因子を詳細に解析・比較することで、各疾患の CKD 進行に伴う組織学的変化のみならず、予後因子といった特徴について評価することを目的とする。</p> <p>医の倫理委員会承認日～2029年3月31日</p>
研究に用いる試料・情報の種類	情報：病歴、採血所見、病理所見、治療歴、腎予後、生命予後 等
試料・情報(研究に用いられる情報にかかわる資料を含む)の保管及び廃棄の方法	医療情報は研究終了後には破棄する。
研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び個人の収益等、研究者	北野病院腎臓内科研究費にて実施する。このため、資金提供者が研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与することはなく、利益相反はない。



等の研究に係る利益相反に関する状況	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 電話：06-6312-1221、FAX：06-6312-8867 腎臓内科 副部長 半田貴也 研究責任者：腎臓内科 副部長 半田貴也</p>